

東京都知事 殿

提出者の情報

糸長浩司、

対象事業の名称： 築地地区まちづくり事業の環境影響評価書案

環境保全の見地からの意見

意見の対象項目：水循環

再開発による土地利用の変化に伴う地表流水の変化に対する環境影響を十分に考慮しておらず、追加評価が必要である。以下の点について追加評価を求める。特に、近年の豪雨災害による都市部の内水面氾濫が深刻であり、生活環境の脅威ともなっている。この点を踏まえて、本再開発計画の影響について真摯に、科学技術的かつ予防原則的に評価してほしい。

1. 本件では、2つの課題（①内水面氾濫、②汚水の東京湾への流出（都内の合流式都市下水の欠陥））があることを明記してその対策について言及する必要がある。
2. 総床面積が125万haの超高層ビル等が予定されている。建物使用による汚水量は、約50,000m³/日と推計する。また、近年の集中豪雨、時間50mmを超え、120mmの可能性への対処も求められるがこれに対する評価がないので追記してほしい。
3. 東京都の下水は合流式（雨水と汚水（生活排水・糞尿等））であり、敷地内は分流式で処理しても、豪雨時には敷地外の都市下水に排出される。その結果として敷地周囲での内水面氾濫の可能性が多発する。これに対する対応についての評価をすべきである。特に、敷地に隣接する場外市場には一日に約5万人の来訪者を考えると敷地外での都市下水道氾濫、マンホール噴水等の内水面氾濫についての評価と対策について修正追記すべきである。
4. 合流式の下水道のマンホールから汚水混じりの排水が噴出し、甚大で生活環境に影響を及ぼす内水面氾濫、あるいは、隅田川、築地川への汚濁が流出する危険がある。かつての豪雨災害で東京湾の汚水被害（大腸菌）で、2019年8月のパラトライアスロンのテスト大会では基準値を超える大腸菌、水泳が中止となった。以上の点について、計画地での土中浸透が減少すること、および汚水が大量に発生することは、敷地周囲の環境への新しい影響であり、これに対する防御について言及すべきである。
5. 評価書案では、9500m³の地下雨水貯留槽で対処するとしている。東京都の指導によるものと判断する。流域基準量：500m³/ha（隅田川・臨海部流域基準）×19ha=9500m³と推察する。50mm/時間×1ha=500m³/haが根拠だが、近年の線状降水帯の発生等を考えると120mm/h以上への対処もめられる。結果として、地下雨水貯留槽の大きさは、2～3倍、19000～28500m³が必要である。この点について追加評価すべきである。
6. 本再開発での汚水量は、現況の0から増大に増加する。先に推定したように1日で約50,000m³の汚水が増加すると推察する。この点に関して中水利用もあると推察するが、評価書案には明記されていない。地下に一定量の汚水タンクを設置すると推察するが、評価書案には明記されていない。全て敷地内では分流式だが、敷地外では雨水と合流し都市下水道に排出されると想定する。50,000/19ha=2,632m³/ha・日の追加汚水量である。2,630/24時間=110m³/hの排出となるが利用頻度の高い昼間はその倍以上になると推察する。豪雨時が昼間の場合を想定すると相当な汚水が雨水とともに敷

地外の合流式公共下水道に排出され、汚水混じりの内水面氾濫、あるいは、勝どきポンプ場から隅田川に排出されると推察する。以上の点に関しての環境影響評価がされていない。この点について追加修正してほしい。

7. 敷地外の都市下水道のマンホールでの噴出はどこの箇所のマンホールかを想定しているのであれば、その場所を明記してほしい。
8. 工事後の地表面流出量は、本編 375 ページの表 8.7-5 計画地内の地表面流出量で、現況は約 $4.92\text{m}^3/\text{s}$ で工事後は約 $5.15\text{m}^3/\text{s}$ としている。工事前後で約 $0.23\text{m}^3/\text{s}$ 程度の増加であり環境影響はないとの結論としているがこれは数字のマヤカシである。現況を全て舗装として流出係数を 0.85 としているが、その根拠が不明である。現況は建物がなく、土の状態が主であるとすれば、流出係数は、0.3～0.4 程度で半分となり、約 $2.46\text{m}^3/\text{s}$ である。開発後は 5.15m^3 はその倍になる地表面流出量となり、無視できない数字である。また、建物の屋根面積を少なくし、かつ芝生等の緑地にすれば、工事後の地表面流出量を抑えることができるが、それについての言及がない。地表面流出量を抑えることが先の敷地外の内水面氾濫を抑えることにつながる。この点についての評価をすべきである。
9. 地下に $9,500\text{m}^3$ のタンク想定。 $5.2\text{m}^3/\text{s}$ のピーク流入が続いて約 30 分間は耐えられるがそれ以上ではアウトとなり、敷地外の合流式の都市下水道に排出され汚水まみれの内水面氾濫となる。 $5.2\text{m}^3/\text{s}$ は、約 $100\text{mm}/\text{h}$ の雨量を想定している推察するが、近年はこれ以上の集中豪雨を想定すべきである。環境アセスでの東京都の指針が不十分であり、今後の豪雨災害を想定すると、本再開発が完了予定の 10 年度には対処できない指針でもあることを考慮して、開発事業者としての企業倫理としても、リスク回避の視点から予防原則的評価と対処をすべきと考える。この点での誠意ある回答を求める。